

平成28年度

「新庄市まちづくり市民アンケート調査」

報 告 書

平成28年9月

新 庄 市

は し が き

この報告書は、新庄市に住所を有する満18歳以上の男女1000人を対象として、平成28年6月から7月に実施した「新庄市まちづくり市民アンケート」の調査結果をまとめたものです。

今回の調査は、新庄市での暮らしの中で感じていること（満足度）、新庄市で暮らしていくために重要なこと（重要度）を71項目にわたりお聞きし、「これから、どのようなまちづくりに取り組んでいく必要があるのか（ニーズ度）」を把握するために実施したものです。

本市では、平成23年度に新庄市まちづくり総合計画（第4次新庄市振興計画）を策定し、平成27年度に後期5カ年（H28～H32）の見直しを行いました。この計画に基づき、より住み良いまちづくりを市民の皆様とともに進めております。この調査で市民の皆様方のご意向を把握することにより、まちづくり施策の重点化を図るとともに、施策の達成度を評価し、業務の改善のための基礎データとして活用させていただきます。

最後に、この調査にご協力いただきました市民の皆様には厚く御礼を申し上げます。

平成28年9月

新庄市長 山尾順紀

目 次

I. 調査の概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査票の構成	1
3. 調査方法	1
4. 設問の意図	1
5. 報告書の見方	2
6. アンケート調査 標本数の算出	3
II. 調査結果（全体）	
1. 回答者の属性	4
2. 満足度（順位別）	6
満足度順位別一覧表	8
満足度の項目別回答割合	10
3. 重要度（順位別）	13
重要度順位別一覧表	15
重要度の項目別回答割合	17
4. 満足度と重要度の関係（ニーズ度）	20
満足度と重要度の散布図	22
5. 暮らしの現状と考え方について	24
6. これからも新庄市に住みたいか	25
7. 市民の子育て意識について	30
III. 調査結果（詳細）	
1. ニーズ度順位別重要度・満足度	36
2. 世代別満足度	38
3. 世代別重要度	39
4. 世代別ニーズ度	40
5. 男女別ニーズ度	41
6. 暮らしの現状と考え方について（世代別）	43
IV. 参考資料	
調査票	53

I . 調 査 の 概 要

1. 調査の目的

市民が普段の生活において感じている各施策に対する満足度・重要度を定期的に把握し、施策の重点化、施策の達成度評価、業務の改善のための基礎データとして活用するものである。

2. 調査票の構成（4. 設問の意図、参照）

- ・ 問1 回答者の属性（属性別分析に活用）
- ・ 問2 満足度（71項目）
- ・ 問3 重要度（問2と同じ71項目）
- ・ 問4 暮らしの現状と考え方（生活に密着した設問26項目）
- ・ 問5 定住志向（及び転居希望理由）
- ・ 問6 子育て意識調査

3. 調査方法

- ・ 調査対象：新庄市に住所を有する満18歳以上の男女（平成28年4月1日現在）
- ・ 標本数：1000人（住民基本台帳を用いた無作為抽出）
- ・ 調査期間：平成28年6月22日～7月11日（20日間）
- ・ 配布方法：個別郵送
- ・ 回収方法：料金受取人払による郵送回収（無記名自記入）
- ・ 回収率：45.8%（458人）

4. 設問の意図

- ① 問2、問3では、新庄市での暮らしについての満足度、これからの暮らしの中での重要度を問い、それぞれの調査結果を数値化し、その差をもってニーズ度の把握を行った。施策や事務事業の重点化に活用する。
- ② 問4では、回答者ご本人の日常生活における暮らしの現状と考え方を問い、行政サービスが効果的に働いているか、市民がどんな考えをもっているかを把握した。行政サービスの改善や事務事業の実施方法の改善などに活用する。
- ③ 問5では、定住志向についてお聞きし、年代別にその変化を分析した。また、定住希望者には市内での転居希望をお聞きし、潜在的な住宅需要の傾向把握を行った。
- ④ 問6では、子育ての意識についてお聞きし、年代・男女別に分析を行った。

5. 報告書の見方

- ① 問2及び問3は、「そう思う(満足)」から「そうは思わない(不満)」、「重要」から「重要ではない」までの5段階の回答を5～1の点数に置き換え、項目ごとの全回答(無回答・わからないを除く)の加重平均値をそれぞれ「重要度」「満足度」とし、その差からニーズ度を算出した。(※重要度が高く満足度が低い項目は、住民のニーズ度が高いと判断した)
- ② 問4は、「はい」「いいえ」それぞれの回答の全回答(未記入・どちらともとれる回答は除く)に占める割合により分析した。
- ③ 問5、最初の質問と、選択した後に回答する質問を分けて分析した。
- ④ 問6では、子どもの数に関する問へ無回答だったものは除いて算出した。
- ⑤ 比率はすべて百分比で表示し、小数点第1または2位を四捨五入して算出した。したがって、百分比の合計が100%とならない場合がある。
- ⑥ 指標項目の順位付けは、四捨五入後の数値が同じであれば同じ順位とした。

6.アンケート調査 標本数の算出

※ 信頼度によって決まる定数λについて、例えば「信頼度95%」とは、母集団の賛成の比率が $p \pm d$ の範囲にあると推定した場合、その推定が絶対に正しいかを問われれば、「間違いの可能性はあるが、その確率は5%以内である」ことを示している。

	区分	係数
信頼度	90	1.65
	95	1.96
	99	2.58

信頼度95% ($\lambda = 1.96$) で、標本誤差を±3% ($d = 0.03$) とすると、

(p は確率で、簡単には予想することができない。分からない場合は、通常 $p(1-p)$ の最大値 $p = 0.5$ を採用する)

基本条件

↓ 18歳以上(H26. 4. 1新庄市住民基本台帳)

・母集団の大きさ	N =	31,138 人	→	31,138
・要求精度	e =	5 %	→	0.05
・信頼度	a =	95 %	→ =k	1.96
・母集団の比率	p =	0.5	→	0.5
・回収率		38 %	→	0.38

有限母集団の場合

$$n = > \frac{N}{(e/a)(e/a) * \{(N-1)/(p(1-p))\} + 1} \rightarrow \frac{31138}{82.05216576} = > 380人$$

※回収率を考慮した標本数は？

1,000 人